



まちだの新たな 学校づくり通信

Machida New Concept School 2040

2026年2月発行

町田第三・山崎地区

- 1頁 意見交換会
- 2頁 地域活用型学校
基本計画検討会

ともに学び、ともに育つ学び舎づくりを目指して

【発行】町田市教育委員会

新たな学校づくり意見交換会を開催しました！

保護者や地域の方々から、学校の統合や新校舎の整備に向けて、気になることや期待することなど、基本計画検討会における検討課題を整理するため、意見交換会をオープンハウス形式で開催しました。

本号では、主なご意見と回答を紹介します。その他のご意見と回答は、町田市ホームページに掲載しています。



統合新設中学校意見交換会
(町田第三中学校・山崎中学校)

Q：校庭、体育館、視聴覚室などの広さはどうなるのか。

A：「校庭」や「体育館」は必要な諸室の面積とのバランスを考慮しながら、広く確保できるように設計を進めます。
従来の「視聴覚室」は、図書や視聴覚教材といった多様なメディアを活用し、協働的な学習を展開することができる「ラーニングセンター」として新たに整備します。



Q：自転車通学は実現するのか。自転車通学の対象者はどのような子どもなのか。

A：自転車通学については、現在、学校統合に伴う生徒の通学負担軽減策のひとつとして、市立中学校の自転車通学のための統一的な基準の策定を進めており、通学の許可要件や交通安全対策などの検討を行っています。

対象者については、通学距離が2km以上、通学時間が概ね30分以上の生徒を想定しています。



Q：学校統合前に部活動を統合したり、交流したりできるようにしてほしい。



A：部活動についても、教育課程と同様に統合前から両校の交流を図り円滑に統合できるよう準備を進めます。また、学校や地域の実態に合わせ、部活動の設置や活動時間等について協議してまいります。

Q：地域の拠点として小中学校は地元の住民との交流の場でもあるため、共用可能な体育館、グラウンド、防災設備等が必要なのではないか。

A：体育館やグラウンドは、地域の方々に文化やスポーツ等の活動の場として活用してもらえよう施設環境を整えることで、将来にわたって地域の方にも愛着を持ってもらえるような開かれた学校となるよう整備を進めていきます。

また、現在学校が担っている避難施設機能については、その地域における統合新設校と閉校となる学校跡地で引き継いでいきます。

新たな学校づくり推進計画では

地域活用型学校（市民生活の拠点づくり）を目指しています！

学校を子どもたちだけの場ではなく、子どもも、大人もともに学び、ともに育つ場にしていきます。これからの学校は、学校教育の場や身近な避難施設としての役割に加え、多様な人々が学校につどい、活動や交流をする「地域の活動拠点」となることを目指しています。

新たに整備する学校は、普通教室などの学校専用エリアと地域開放エリアの導線を分けることで、誰もが安心して利用できるセキュリティを確保します。こうした取り組みを、より分かりやすく「地域活用型学校」と名付け、推進しています。



検討を進めていきます！

町田第三・山崎地区中学校新たな学校づくり基本計画検討会

2026年度から統合対象校の保護者、地域の方、学校運営協力者、教職員の代表で構成する「新たな学校づくり基本計画検討会」を設置します。検討会では、意見交換会で寄せられたご意見を参考に、施設整備、通学の安全対策、生徒への配慮等について具体的に検討します。

		8年前 25年度	7年前 26年度	6年前 27年度	5年前 28年度	4年前 29年度	3年前 30年度	2年前 31年度	1年前 32年度	【統合】 33年度
統合に向けた準備・検討		意見交換会	基本計画 検討会	新たな学校づくり基本計画推進協議会						
対象校等	町田第三中学校	既存校舎								
	山崎中学校	既存校舎								
	旧本町田小学校用地	本町田ひなた小学校	校舎解体及び新築工事						新校舎使用開始	

統合